

社長 登波松 日本エレクトライク

〈株式会社日本エレクトライク〉
 ▷本社 川崎市中原区小杉町3-239-2
 ▷設立 2008年10月2日
 ▷資本金 7000万円

日本エレクトライクは川崎市にあるベンチャー企業。日本で初の三輪電気自動車「エレクトライク」の開発製造販売をめざし、ペテランの技術者集団を中心に実用化の最終段階に入っている。来月には受注を開始する。

松波登社長(64)は東海大時代にラリーレーサーの篠塚建次郎氏と知り合い、自身もラリーの世界へ。父親の会社を継いだ後もラリーとは関わり続け、昨年は大雪に見舞われた「モンテカルロ・ヒストリック2012」でアクシデントに遭遇しながらも完走を果たした。

社長の私生活

夢を追いつける元ラリーレーサー

取材当日、最寄りの武蔵小杉駅まで日産のリーフで迎えに来てくれた松波社長。機敏な動きでハンドルを操作する姿は、まさにプロドライバーそのもの。

クルマとの付き合いは長いが、何しろ中学生時代に友人宅のオートペットで遊び、高校時代には実家のコ

「大学卒業時に恩人の山崎英一さん(故人)が、おまねに実績がないからクルマを売ってやらせよ」と三菱自動車系の販売会社を紹介してくれ、入社したんですよ」

父の死で2代目社長になるも巨額の債務

しかし、自由な生活は2年も続かなかった。父親に家業を手伝うよういわれ、1973年のシーズ

ン直前、トヨタのモータースポーツ関係者から声がかり、クルマを用意してくれ、ワークスドライバークラスとして参戦。MSラリー選手権で全日本3位に

「モンテカルロ・ヒストリック2012」スタート前に



「家族 幸子夫人(56)との間に1男1女、長男・太郎さん(28)は学生時代、「学生フットボール」の大会にレーサーとして参加。現在は日本ユニテックと東科精機に勤務。長女・美穂さん(26)は最近結婚した。」

「日本ユニテック」を立ち上げて新規事業に取り組み出すことになった。これを契機に「リアウエーニター」の普及に火が付き、その後も試練に見舞われたが乗り越え、価格も抑えた。その結果、今では年間5億円を売り上げるヒット商品になったのである。

たね。1000台も作らせたのに10台とか20台しか売れない。皆さん文句を言われましたね」

やがてドライバーや運輸関係に認知されるようになり、2008年には全日本トラック協会が助成金を出すことになった。これを契機に「リアウエーニター」の普及に火が付き、その後も試練に見舞われたが乗り越え、価格も抑えた。その結果、今では年間5億円を売り上げるヒット商品になったのである。

クルマとともに半世紀

父の死で2代目社長になるも巨額の債務

「モンテカルロ・ヒストリック2012」スタート前に

1000台作ったが月10台しか売れなかった

「モンテカルロ・ヒストリック2012」に63歳で参戦、雪道で壁に激突したが完走

この大型免許が次のビジネス開花に結びつくことになった。

「いつ倒産しても困らないように大型免許を取得し、会社のトラックも運転してましたよ」

「15回ラリー・モンテカルロ・ヒストリック」に松波社長は、東大・関東工大合同チームのドライバーとして「セリ力」で参戦した。「スプリングター・トレノ」(ドライバー・山口義則氏)と2台で参戦したが、去年は大雪だったんです。300台のうち100台近くがつぶれちゃ

「どこか売れないんです。1台20万円ぐらいです。商品になったのである。」

「結局、ペナルティー覚悟で応急処置を施し、なんとか完走を果たした。ラリーの話をする松波社長は実に楽しそうだ。」



日本初の三輪電気自動車の実用化に向け全力投入中

大型トラックを運転する時に困るのは後方の視野確認。大型免許取得中だった松波社長自身の悩みのタネでもあった。当時は父の亡くなった直後、父親の病室にあったソニーのポータブルカラーTVを引き取り、愛車の後ろのアームレストに取り付けバックミラーで見ていた。そんなある晩、トラックを運転している夢を見た。

「モニターにテレビ映像ではなく後方の景色が映っていたんです。これだ」と思いました。すぐにワンボックスのデリカに、出始めはばかりの液晶TVやハンディカムを搭載して実験を始めたのです」

「モニターにテレビ映像ではなく後方の景色が映っていたんです。これだ」と思いました。すぐにワンボックスのデリカに、出始めはばかりの液晶TVやハンディカムを搭載して実験を始めたのです」

この状態で完走した

- 所持金 カードとは別に5万円から10万円
- 健康法 30分歩いて通勤。1日平均1万5000歩は歩く。靴は中国のショップで買うナイキのエア・マックス。「歩くのは(時間がかかるので)ぜいたくですよ(笑)。おかげで体調はいいですね」
- カラオケ 「ルート66」「ロシアより愛をこめて」「わが人生に悔いなし」
- 愛読誌 日経ビジネス

産学連携で開発。来月、川崎で試乗会

クルマと共に人生を疾走してこたを押し、2個のモニターを使用し、それぞれ個別にアクティブコントロールすることで旋回性能を飛躍的に高めた。

2005年から東海大学との産学連携で取り組んできた。08年に旧知の草加浩平東京大学教授の紹介で、かつて日産の電気自動車開発担当(プロジェクトマネジャー)だった千葉一雄氏と知り合いの意気投合。還暦の誕生日(2008年10月)に日本エレクトライクを設立。千葉氏を取締役に招いて本格的な開発が始まった。インド最大のオートバイメーカー「バジャージ」の前で抱負を語る松波社長の夢は広がるばかりだ。

「家庭用の100V電源で6時間充電すれば40km走れます。1リットルの電気料金は一円50銭程度とみています。4月16日に日本エレクトライクの工場を試乗会をやります。今年中に10台の試験販売、来年は1年で100台の販売を、再来年は1000台を目指していますね」